

岡山実験動物研究会の再出発

三谷 恵一

岡山実験動物研究会会長

特色ある岡山実験動物研究会

第54回研究会が平成19年11月30日（金）ピュアリティまきび会館にて日本生物工学会西日本支部の協賛で開催されました。1時間の特別講演が“時計遺伝子(period)”、“性決定機構”、“糖尿病とウジ虫の神秘を活かしたマゴットセラピー”の3題が、著名な研究者によって展開され、十分な質疑応答を行ないました。

普通の学会は、展示発表のみとなり、口頭発表の場合も10分でベルを鳴らされます。発表は一方的になり、反応してくれる人も少なく、キョトキョトするばかりで、あまり勉強になりません。“高いお金を出して学会に行ったけれども、私は孤独”“自分が命を掛けている研究を、結局は無視されていくのではないか？”などの不安が脳裏をかすめます。「岡山実験動物研究会」は、そのような悲しい姿にならないように、形式的な学会化を避けてきました。

それは、初代会長：猪貴義先生(岡山大学名誉教授)の麗しい初志であり、25年間その伝統を保持してきました。その精神は最高の研究発表を聴き、自己の見聞を広げると同時に、懇親会や2次会を通して自分の研究を理解しサポートしてくれる同僚や企業関係者とお友達になり、人類と動物の幸福のために、日夜研究に勤しむ会員ひとりひとりの自己実現(self actualization)をはかることです。

HP：岡山実験動物研究会の立ち上げ

本年、平成19(2007)年より、嶋村三智也理事(株クラレ・くらしき研究所・構造解析グループ・研究専任職)、新井成之常務理事(嵯林原生物化学研究所・研究センター・医薬研究部門・主席研究員)、国枝哲夫常務理事(岡山大学大学院自然科学研究科[DC]・動物遺伝解析学・教授)の尽力により、念願のHPが立ち上がりました。

例えば、賛助会員(研究会助成企業)をヒットしますと乾商事株式会社東大阪営業所、オリエンタル酵母工業株式会社大阪バイオ営業所、片山化学工業株式会社岡山営業所など20社近くが名を連ねていただいていることが一目瞭然となります。次に、個々の会社をヒットしていけば、各企業の実態が瞬時に写真や画像から把握できます。広告掲載希望があれば、無料で掲載することとしてい

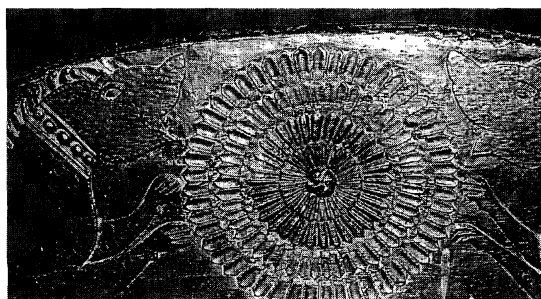
ます。

研究会役員の氏名も明晰になり、役員相互や賛助会員とのインターネットなどを駆使した社会的使命の遂行も容易になりました。本年6月22日に岡山大学創立五十周年記念館で開催された第53回研究会の一般講演3題、教育講演、特別講演、11月30日に岡山市のピュアリティまきびで開催された第54回研究会の1時間ずつの3題の特別講演の題目・発表者・会場写真など最近の研究会の開催に関する情報なども簡単に検索でき、研究連絡できるようになりました。

「岡山実験動物研究会報」のバックナンバーの製本

後1年で元会長の佐藤勝紀教授が岡山大学を退官されます機に、24号まで続けて厚さ10センチに達した全国的に評価の高い「岡山実験動物研究会報」のバックナンバーの製本も達成することとします。

これを機会に、会員数がますます多くなり、実り多い楽しい研究会へと更に発展させてまいりましょう。



右への運動視をかもし出す木彫レリーフ。外から一重目は51枚、二重目は49枚、三重目は31枚、四重目は31枚、五重目は4枚の合計167枚の奇数である。ディテールは極めて複雑であるが、奇数を貫くという抽象戦略がある(バングラディッシュ博物館にて)。知覚学習が進むと次第に見えてくる。(三谷恵一著「脳と知覚学習」, 2003)